

令和2年度 研究・調査企画会議 事後評価部会（第1回）

議事概要

1 日時：令和2年8月17日（月）13：30～15：00

2 場所：食品安全委員会中会議室（Web 会議システムを利用）

3 出席者（7名）五十音順

◎岡部 信彦	川崎市健康安全研究所所長
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部総合品質保証担当
眞鍋 昇	大阪国際大学教授（学長補佐）
丸井 英二	人間総合科学大学教授
宮崎 茂	一般財団法人生物科学安全研究所参与
望月 眞弓	慶應義塾大学薬学部特任教授
四方田千佳子	神戸薬科大学特任教授

（◎：座長）

その他、食品安全委員会から佐藤委員長ほか3名が、事務局から小川事務局長ほか10名が出席

4 議事概要

（1）令和元年度終了研究課題の事後評価結果（案）について

- 本部会の各委員が事前に行った書面審査の結果に基づき、事務局が各課題の事後評価結果（案）を作成し、これらの案について審議を行った。
- その結果、各委員からの意見を踏まえて事務局が事後評価結果（案）を修正し、同部会委員が内容を確認した上で、食品安全委員会に報告することになった。

<事後評価対象課題>

- ①1706：合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価における溶出試験法に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所：六鹿元雄）
- ②1801：新規評価支援技術の開発に関する研究～毒性予測に向けたデータベースの活用方法の検討～（名古屋市立大学：頭金正博）
- ③1802：食物消化過程におけるカンピロバクターの生残特性を基盤とする新たな用量反応モデルの開発（北海道大学：小関成樹）
- ④1803：食品に非意図的に混入する微量化学物質のリスク評価への *in silico* 評価手法の適用に関する研究（岡山大学：小野敦）
- ⑤1804：ベンチマークドース手法の健康影響評価における適用条件の検討（国立医薬品食品衛生研究所：広瀬明彦）
- ⑥1806：国内で多発するカンピロバクター食中毒の定量的リスク分析に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所：朝倉宏）
- ⑦1807：重篤なアレルギーのリスクとなる果物類アレルギーコンポーネントに

関する研究（京都大学：丸山伸之）

- ⑧1808：フモニシンのモディファイド化合物のリスク評価に関する研究
（国立医薬品食品衛生研究所：吉成知也）
- ⑨1901：体内移行に着目した食品添加物のリスク評価手法に関する研究
（ヤマザキ動物看護大学：梅村隆志）

（2）食品安全確保総合調査の事後評価結果（案）について

- 令和元年度に実施した以下の食品安全確保総合調査課題に対し、事務局が作成した各課題の事後評価結果（案）について審議を行い、案のとおり了承された。

＜令和元年度実施課題＞

- ①食品用器具・容器包装に用いられるビスフェノールAに係る評価手法及び科学的知見（体内動態、毒性、ばく露量、疫学調査等）に関する調査
- ②えび、かに及び落花生アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査
- ③薬剤耐性菌のリスク評価手法の検討に関する調査
- ④ファクトシートのためのダイオキシン類及びヒスタミンの科学的知見の収集に関する調査
- ⑤海外のリスク評価機関における評価結果等に関する調査

（3）食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の追跡評価結果について

- 昨年12月2日に開催された研究・調査企画会議プログラム評価部会において、研究事業及び調査事業の活用状況について追跡評価が行われた。事務局より、その評価結果が報告された。

－以上－

（注：本部会は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。）